

きょうどのざいさん「戸ノ口ぜき」

戸ノ口ぜきは、340年もの間、猪苗代湖の水を台地の上に送りつづけてきました。

その水は、農業用水としてばかりでなく、水道用水、工業用水、発電用水として、さらには防火用水、おほりの水としてなど、さまざまに使われてきました。今では、水道用水、発電用水などは、べつになっていますが、それでも、戸ノ口ぜきがわたしたちの市の生活に大きく役立っていることは、まちがいありません。

飯盛山の洞門わきには、戸ノ口ぜきにかんしゃして、土地の人々が石ひをたてています。



戸ノ口ぜきのじむしょのおじさんの話

会津若松市の人々は、猪苗代湖という大きな水がめから、戸ノ口ぜきで水を引いているおかげで、他の地方のように水不足になることは、ほとんどありません。

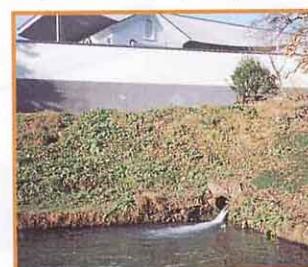
戸ノ口ぜきがあったおかげで、浄水場や発電所ができ、工場や家がたつようになりました。

わたしたちは、きょうどの先輩たちがのこしてくれた「戸ノ口ぜき」という、すばらしいざいさんにかんしゃし、これからも守り育てていかなければならぬと考えます。

滝沢浄水場



お城のおほりに入る戸ノ口ぜきの水



戸ノ口ぜき石ひ



(1921年9月にたてられる)